

専攻医
の主張

『らーめんM』

マツダ株式会社 マツダ病院 循環器内科 岡田 朗

マツダ株式会社マツダ病院循環器内科の岡田朗と申します。このたびはこのような執筆依頼をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、このたび依頼をいただいてから重い腰を上げ執筆を始めるのに2ヵ月ほどが経ち、すっかり締め切り直前となってしまいました。その間どういった内容にしようか大変に悩みました。私のこれまでといえども皆さまに紹介できるような経歴ではなく、過去の先生方が書かれた記事を読むと余計に恥ずかしくなり、こうした機会にふさわしいものが書ける自信は全く湧いてこないのです。とは言え、今もし読んでくださっている先生方がいらっしゃるのならせめて少しでもクスツとしていただけるような、そんな何かを書けないものか。そこで、格好良く立派な文章を書くことは諦め、思い切って私の好きなラーメン店の話をさせていただこうと思います。

私の医師人生で唯一の成功は、私などをも愛してくれる妻を見つけられたことでした。妻は無類のラーメン好きで、携帯のメモには「行きたいラーメン屋さんリスト」がびっしりと書き込まれていました。数年前そのリストの中から初めて訪れたのが黒瀬にあるMというお店でした。入店する前にはYouTubeで話す店主の様子を妻に見せられ、過激な発言に私は内心不安な気持ちになっていました。Mはいわゆる魚介醤油ラーメンで、「さんま」や「さば」などの中から出汁の味を選んで注文するスタイルでした。「さんま醤油ラーメン」を注文し待ってい

る間も、店内の独特な雰囲気私の不安は次第に大きくなっていきました。

しかし、いざ提供され一口スープを飲んでみると、それは杞憂であったことに気付かされました。夢中になって食べてしまい、魚粉が残った丼の底が見えた時、妻のラーメンはまだ半分残っていました。ふと我に返り店主の様子を見ると、次の客の丼をボイラーに入れているではありませんか。そして麺が茹で上がるとボイラーから素手で丼を取り出し、熱々の丼にラーメンを作ると「熱いので気を付けてください!」と言いながら提供しているのです。私に提供された時には気が付かなかったのに、その時初めて店主の手が真っ赤であることに気が付きました。私は不安に感じていたことが恥ずかしくなりました。Mの店主はラーメンに対してとてつもなく真剣だったのだとようやく分かったのです。

以後すっかりファンになり、遠出ができる日には通うようになってしまいました。どうして大量の仕込みのはずなのに毎度こんなに細かくネギを刻めるのだろうか、などと、訪れるたびその仕事に驚いてしまうのです。思えばきっと毎月私の外来に来てくださる患者の方々も、その都度何らかの印象を持って帰られているのだと思います。自分の仕事は少しでも信頼していただけの何かがあるのでしょうか。いつも患者にはそう説明しているのだから、次はスープを飲み干すのぐらいいは我慢しよう、そう毎回思うのでした。

かかりつけ医のための適正処方の手引き

高齢者に多く見られる残薬や多剤併用などの課題に取り組み、医薬品の最適な使用と薬剤費の適正化を推進するため、日本医師会において「かかりつけ医のための適正処方の手引き」を作成しています。

既存の「①安全や薬物療法」「②認知症」「③糖尿病」「④脂質異常症」に加え、新たに「⑤高血圧」の薬物療法についての手引きが作成されました。

日本医師会ホームページ (https://www.med.or.jp/doctor/sien/s_sien/008610.html) からダウンロードできますので、患者さんの服薬管理を行う際の参考資料としてご活用ください。

